

「ヘルプマーク」を取り入れた JIS Z8210 改正（案）（抜粋）

JIS
Z 8210 : 2002

案内用図記号

Public Information Symbols

序文 この規格は、不特定多数の人々が利用する場所、建物、印刷物などに、言葉によらない表現による“案内”に用いる図記号を規定したものである。今日、人及びものの国際交流が増大する中で、文字・言語の壁を超えて情報伝達を図る手段として、案内用図記号の果たす役割は重要である。

1. 適用範囲 この規格は、不特定多数の人々向けの案内などに用いる図記号について規定する。案内用図記号を用いて情報を伝えることが好ましい領域は、例えば、公共・一般施設、交通施設、特定の場所・建物、観光、商業・小売店など、あらゆる施設のほかに、さまざまな地図、案内板、標識、印刷物などである。

なお、周囲の人に援助又は配慮を必要としていることを知らせるための“ヘルプマーク”について、附属書〇に規定する。

備考 この規格は、工業生産される標識板などの作成に関して適用されるものであるが、それ以外の方法、例えば、印刷する、画像で表す、など何らかの表現方法によって表示されるものにも適用される。

なお、機器・装置用図記号は除く。

参考 図記号に関する定義及び原則には次の規格があり、この規格の適用に当っては手引きとして用いるとよい。

- a) 図記号の理解度試験方法 (ISO 9186 : 2001)
- b) 案内用図記号の制作及び適用 (ISO/TR7239 : 1984)

2. 定義 この規格に用いる主な用語の定義は、次による。参考として対訳英語を示す。

- a) **図記号 (Graphical symbol)** 言語から独立して情報を伝える一つの意味をもつ、視覚的に知覚される図形。
- b) **案内用図記号 (Public information symbols)** 不特定多数の人々に対して情報を伝えるためにデザインされた、専門的又は職業的訓練なしでも理解される図記号。
- c) **表示事項 (Referent)** 図記号によって表そうとする概念、意味又は対象。
- d) **図材 (Image content)** 図記号で表そうとする視覚的要素とその配置関係。
- e) **機能 (Function)** 図記号を使用する意図又は目的。











3. 案内用図記号の分類 案内用図記号の分類は、表 1 による。

表 1 案内用図記号の分類

案内用図記号－施設など	公共・一般施設図記号	不特定多数の人々が利用する施設，サービスなどを表す図記号
	交通施設図記号	交通に関わる施設，サービスなどを表す図記号
	商業施設図記号	商業に関わる施設，サービスなどを表す図記号
	観光・文化・スポーツ施設図記号	観光・文化・スポーツに関わる施設，サービスなどを表す図記号
案内用図記号－安全など	安全図記号	安全確保のための防火，危険，誘導設備及び場所を表す図記号
	禁止図記号	一般の行動において禁止事項を表す図記号
	注意図記号	一般の行動において注意事項を表す図記号
	指示図記号	一般の行動において指示事項を表す図記号

4. 案内用図記号—安全などに用いる基本形状、色及び使い方 安全、禁止、注意及び指示図記号に用いる基本形状、色並びに使い方は、表 2 による。

表 2 安全、禁止、注意及び指示図記号に用いる基本形状、色並びに使い方

種類	基本形状	色	使い方
安全	防火・危険		正方形の内部を赤で塗りつぶす。
	誘導		正方形の内部を緑で塗りつぶす。又は白地に緑の図材とする。
禁止		円及び内部の斜線部分は赤とし、その他は白とする。	基本形状の使い方は、次のとおりとする。 (1)  の形状の中に具体的な禁止事項を意味する図記号を黒色で図示する。  は図記号にかぶせる。 (2) 図記号を用いず、文章などを併用する場合は、その文章などに  を添える。
注意		三角の枠部分は黒とし内部は黄とする。	 の形状の中に具体的な注意事項を表す図記号を黒色で図示する。
指示		円の内部を青で塗りつぶす。	 の形状の中に具体的な指示事項の図記号を白系統色で図示する。

(以下、省略)

附属書〇 (規定) ヘルプマーク

〇. 1 一般

義足又は人工関節を使用している人、内部障害又は難病の人、妊娠初期の人など、援助又は配慮などが必要としていることが外見からは分からない人々があります。そうした人々が、身に着け、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくするための“ヘルプマーク”について規定する。これによって、ヘルプマークが広く普及し、援助又は配慮が必要な人がいることへの気付き又は思いやりのある行動を促進することが期待できます。【この文章は、規格末尾の解説に入れることを事務局として提案いたします。】ただし、ヘルプマークは、簡条 3 及び簡条 4 の適用は受けない。

〇. 2 ヘルプマーク

ヘルプマークは、表〇.1 による。

表〇.1－ヘルプマーク

番号	表示事項	図記号	記事
〇〇.1	ヘルプマーク		<p>図材： 赤地に十字マークとハートマークの白抜き。</p> <p>機能： 援助又は配慮を必要としている人が、身に着けることで、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせる表示。</p> <p>注記 公共交通機関、公共施設などへ掲示する活用例もある。</p>

参考文献 ヘルプマーク作成・活用ガイドライン（東京都福祉保健局障害者施策推進部計画課）
ヘルプマークホームページ <http://>
ヘルプマーク（企業・事業者向け）ホームページ <http://>
ハートシティ東京ホームページ <http://>